

2011年4月29日(金)宮城県女川町巡回診療・報告

東北大学医学部眼科学教室では、東日本大震災直後から中澤徹准教授を中心とする災害医療チームが形成され、必要な医療物資の調達し、石巻、気仙沼の避難所での診察を行った。4月1日からは、毎週金曜に南三陸、女川にて、東北大学病院眼科・耳鼻科・皮膚科の3科合同巡回診療を行っている。4月29日は、祝日のため、通常とは異なるメンバーで診療が行われ、これはその報告書である。巡回診療立ち上げから、4・5月分をまとめた分については、後日改めて報告する予定である。

<背景>女川町(おながわちょう)は、宮城県の東に位置する人口9,965人(推計人口、2011年2月1日)の町で、日本有数の漁港、女川漁港で知られる町である。町の南には石巻市とまたがって東北電力女川原子力発電所があり東北地方に電力をもたらしている。眼科医療に関しては、開業医はおらず、女川町立病院*1に、週2日(月曜午前、木曜午後)東北大学病院から出向する眼科医による外来診療および週1日(水曜午前)手術治療を行っていた。

東日本大震災による津波により、平野部に壊滅的被害を受けた。高さ16mの高台に位置する女川町立病院の1階まで津波が押し寄せ*2、平野部から病院駐車場まで車で逃げ、「ここまで来たら大丈夫」と駐車していた車両も流されたという。4月29日現在、死者454名、行方不明744名。1909名が16か所の避難所で生活している*3

*1: 女川町立病院及び老人保健施設は、平成23年4月1日より指定管理者が公益社団法人地域医療振興協会へ交代した。病棟数は、3階(一般病棟)50床、4階(療養病棟)48床(女川町立病院HPより)。

*2: 3月13日読売新聞記事(<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20110313-OYT1T00561.htm>)

*3: 宮城県HPより(<http://www.pref.miyagi.jp/kinkyu.htm>)

<女川巡回診療概略>

日時:4月29日(金・祝)午後2時~4時

場所:女川総合体育館前 Vision Van 内および周辺

参加メンバー:東北大学眼科布施昇男准教授(眼科医歴21年)、目黒泰彦医師(同5年)、小林航医師(同1年)、ORT2名、医学部5年生2名、医学部4年生1名+日本眼科医会より白井正一郎副会長(同41年)+眼科医ボランティアとして宇都宮原眼科病院院長・原岳医師(同23年)、自治医大眼科・国松志保医師(同18年)の、計11名。また、女川で、石巻の眼鏡店が合流し、Vision Van 隣で、眼鏡希望者に対応した。

診療機器:Vision Van(設備:診察ユニット1台(古いハーグストレイト社製ゴールマン型細隙灯顕微鏡1台、直像鏡3台、検眼レンズ、1m視力計、患者用電動椅子1台、レンズメーター、オートレフ)、手持ちオートレフ1台、ハンドスリット3台、倒像鏡2台、アイケア2台、寄贈使い捨てコンタクトレンズ、寄贈遠用・近方眼鏡、サングラス、点眼薬)

役割分担:□問診(トリアージ)係:原+学生1名、□診察係(診察ユニット:白井、ハンドスリット:布施、目黒)、□薬手渡し係:小林、□なんでも係:国松、と分担した

(途中で係を交代する予定だったが、交代するタイミングがなかった)

トリアージシール:問診係が、患者の主訴から、眼科受診歴なし(緑)、重症(ピンク)、軽症(オレンジ)、眼鏡・コンタクト希望(紫)に分類し、学生が患者の右胸に色分けしたシールを貼った。紫シールには、眼鏡かコンタクトかを記載した。



患者の流れ:バスの中が狭いため、一方通行とした。診療開始直後は、診察ユニットで診察するのは、眼科受診歴なし(緑)、重症(ピンク)および睫毛抜去希望者。ハンドスリットで診察するのは、軽症(オレンジ)眼鏡・コンタクト希望(紫)のうちコンタクト希望、とした。眼鏡希望は、石巻の眼鏡店へ直接、という流れを決め、学生2名がシールの色を見ながら、**Vision Van 外**で誘導した。眼圧チェック、視力測定が必要な場合も、一度患者に **Vision Van 外**に出ていただき、検査の準備ができた時点で再度呼び入れた。診療後半は、待ち患者が少なくなってきたので、眼鏡希望のみであっても、40才以上の患者には診察を受けることを勧め、ハンドスリット係に診察を依頼した。

なんでも係は、常時 **Vision Van 内外**を巡回し、待ち患者への声掛け、**Vision Van 外**で誘導する学生への指示、「散瞳したので、30分後によんでほしい」「視力お願いします」「眼圧チェックを」などの要望を聞き、**Vision Van 内**での患者を誘導した。また、受付の保健師や眼鏡店からの問い合わせに対応した。

カルテ:保健師が名前と生年月日、問診係が主訴、診察係が所見、処置・処方内容、病名を記載したのち、薬手渡し係が受け取り、保管した。

<結果>

1. 総受診患者数: 71名
2. トリアージシール(重複あり):眼科受診歴なし(緑)3名、重症(ピンク)4名、軽症(オレンジ)19名、眼鏡・コンタクト希望(紫)42名
3. 病名(重複あり):近視性乱視・遠視性乱視47名、白内障9名、ドライアイ7名、アレルギー性結膜炎5名、緑内障4名(うち1名はステロイド緑内障、1名は投薬なし)、眼精疲労4名、糖尿病網膜症2名、網膜中心静脈分枝閉塞症1名、睫毛乱生2名、結膜炎1名、翼状片2名
4. 処置・処方:眼鏡お渡し33名、コンタクトレンズお渡し10名、ヒアレン 10本、カリーユニ 7本、パタノール5名、サンコバ4名、緑内障点眼薬3名、抗生剤点眼3名、睫毛抜去2名、

5. 日本緑内障学会作成の点眼一覧表『あなたの目薬は这其中にありますか?』は、3名に利用して、2名の点眼薬の特定に有効であった。

<症例報告>

□54歳女性(フィリピン人)

主訴:メガネが流されたので困っている

問診係が、膠原病でプレドニン内服中であると聞き、眼圧測定が必要と判断し、トリアージシールは、重症の「ピンク」とした。

診察した結果、眼圧右 32mmHg、左 37mmHg。視神経乳頭は正常であった。

タプロスを処方し、1週間後 Vision Van 再診とした。緑内障(ステロイド緑内障の可能性)について説明をして、落ち着き次第、石巻日赤病院を受診し、視野検査を受けるよう、指導した。オートレフで、両眼とも-1.5Dであったことからピンク色の枠の眼鏡を渡した。「よく見える」と喜んでいた。(報告者:国松)

□48歳女性

主訴:コンタクトレンズの定期検診

問診係は、スリットによる診察が必要 と判断し、トリアージシールは、「ピンク」とした。

診察した結果、角膜びらんは認められなかった。震災直後から、ハードコンタクトレンズをつけっぱなしにしていた。数日前、保存液を手に入れることができたので洗浄できるようになったが、ケースがないので、夜はずさないまま寝ている、とのこと。処方を行わず、コンタクト用の保存ケースを渡した(報告者:白井、国松)

□70代男性

主訴:睫毛抜去希望

問診係は、診察ユニットでの睫毛抜去が必要と判断し、トリアージシールは、重症の「ピンク」として、シールに「まつげ」と記入した。

診察ユニットで抜去したところ、非常に感謝された。終わりがけに、「先生、逆まつ毛が生えないようにしてください」 答え「今のところ無理です。それが可能になればノーベル賞ものです」何となく納得して帰られた。(報告者:白井)

④60代、女性

主訴:見づらい

問診係は初診患者で前眼部、眼底の診察が必要 と判断し、トリアージシールを、重症の「ピンク」とした。

診察ユニットで、診察したが、軽度白内障のみ。「メガネはあるか」と尋ねたところ、多焦点レンズの眼鏡をだして装用した。いつも近くはどのようにして見ているのか問うと、ほとんど中間距離用部分しか使用していないので、近用部分の使い方を指導したところ、近くも見るとのこと。一件落着。(報告者:白井)

白井先生追加コメント:日頃の眼鏡装用方法の指導の重要性を再認識させられた。

私のような多焦点レンズ装用者は、実体験に基づいて患者に説明できるので、若い先生方も参考にしてください。

⑤70代、女性

主訴:視力低下

問診係は 具体的な原因不明として、トリアージシールを、「ピンク」とした。

診察の結果、眼底に網膜動脈瘤と思われる出血あり。紹介状用紙はなかったので、患者に症状と動脈瘤の可能性をお話して、石巻日赤病院受診を勧めた。(報告者:布施)

布施先生追加コメント:9年前に白内障手術施行している(術者は小生。それも女川ではなく、石巻にて。顔と名前を覚えていた)

⑥40代男性

主訴:視力低下、セカンドオピニオン希望

問診係は 視力、前眼部、眼底の診察の必要あり と判断し、トリアージシールを、「ピンク」とした。問診用紙に「散瞳必要」と記入。

4月中旬から視力低下した。視力は右0.1(矯正不能)。眼底に硝子体出血を認めたが、硬性白斑もあり、糖尿病網膜症が疑われた。避難所暮らしで血圧も高く、150/80mmHg、とのこと(報告者:布施)

布施先生追加コメント:実は、すでに石巻日赤病院を受診し、血液検査などの結果待ちとのことであった。大学から先生が来るということで、セカンドオピニオンを求めて来たとのこと。このような利用の仕方もあるのかと思った。

⑦70歳代男性

主訴:不明

問診係は無水晶体眼によくある分厚い眼鏡をかけていたのに気づいたが、「緑内障で、レーザーをうったことがある」ことから、トリアージシールを、「ピンク」とした。

診察の結果、無水晶体眼+糖尿病網膜症で眼底にレーザーを打たれていた。眼底は問題なかった。(報告者:布施)

平成23年4月29日担当

東北大医学部眼科学教室(布施昇男、目黒泰彦、小林航)

+白井正一郎、原岳、國松志保